

大会派遣 / 研修会参加

平成 30 年度全国高等学校総合体育大会 女子サッカー競技大会 参加報告

— 「2018 彩る感動 東海総体」 高校総体女子 2 級研修会 参加報告 2 級審判員：大谷美瑛 —

はじめに、7月30日～8月2日にかけて、静岡県藤枝市にて全国高等学校総合体育大会サッカー競技(女子の部)へ研修審判員として参加させていただきました。

大会へ派遣して頂いた関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会、並びに大会関係者の皆様に御礼申しあげます。4日間の研修についてご報告させていただきます。

研修会テーマ「的確な動きと良いポジショニング～A・C・B～」

研修 1 日目 (7/30)

13:00	開校式
13:10	競技規則テスト
15:15	プラクティカルトレーニング
18:30	夕食
19:00	研修会

1 日目：プラクティカル

- ①オフサイド(ボールの出どころがタッチライン際で、最終ラインと攻撃側が入替わる場面)
- ②PK
- ③ホイッスルとフラッグテクニック

1 日目：研修会

1. 動きとポジショニング (講師：浅井昭子氏)

ポジショニングを決めるための基本的原則とみるべき(監視すべき)事柄から得る情報についてグループに分かれディスカッションを行いました。ポジショニングの基本的原則では、対角線式審判法、争点との距離、展開を予測した位置、角度、チーム戦術や選手の特徴などといった意見が出ました。みるべき事柄から得る情報では、ボール、攻守それぞれの選手の数や位置、スペース、副審などの意見が出ました。

くわえて、主審自身の位置も客観的に把握する必要があることを言われました。そして、ディスカッションをした原則や情報をもとに的確な動きをするために必要なことについて講義を受けました。

- ①プレーの予測。今の争点の状況やボールホルダーの体勢、ボールの置き所から次の展開、争点(できれば受け手まで)を予測する。

- ②早い動きだし。次の受け手までの距離や、プレースピードに合わせて動き出す。
そのためには、ボディーシェイプやステップワークの工夫が必要になってくる。

この2点を踏まえて山下良美氏のレフェリング映像をみました。情報を得るタイミングやその頻度の多さ。切り替えの早さや修正をし続けてポジショニングをとっていることを学びました。

2.オフサイドの見極め (講師：岸賢治氏)

審判員から判定に悩んだオフサイドの場面を取り上げ、ディスカッションを行い岸氏から助言を頂きオフサイドの理解を深めました。中でもセーブについて様々な意見が出ました。セーブしたがボールがゴール方向に流れたとき、ほかの守備側選手がボールへ触った場合はセーブとするか、プレーなのか。その判断の根拠は何か(ボールスピード、ゴールとの距離など)を考えました。

研修2日目(7/31)

6:15	モーニングトレーニング
6:45	朝食
9:00	プラクティカルトレーニング
12:00	昼食
13:00	研修試合(主審10分、副審10分)
18:00	夕食
19:00	研修会 女子1級審判員合流

2日目：プラクティカル

①フィットネス (島田氏)

姿勢や良いランニングフォームを作る意識付けのトレーニングを行い、最後にゴール前から反対のゴール前まで争点が移動していくのをイメージして主審と副審の動きを実践しました。

- 姿勢：骨盤を前傾させて上から頭をつられているようなイメージで背筋を伸ばす。
- ランニング、スプリント：足は地面に鉛直におろしてけり出す。
- 副審の動き：パワーポジションをとり体幹の軸をつくる。足の運びがスムーズにいく重心のかけ方

②ショートスプリントの効果的な利用

③中盤～バイタルエリアへの動き

④動きとポジショニングにおける監視すべきポイント

2日目：研修試合

(藤枝北高校紅白戦) INS:遠山昭仁氏

主審：大谷美瑛 副審1：藤田ひなの氏 副審2：達川杏琉氏

「全体的には良いポジションで判定できて、判定するにはベターなポジショニングや動きかもしれないが、競技者の犯すファウルを牽制できていない。」と指摘を頂きました。

改善方法として、「アウトオブプレーやファウルが起きないタイミングで競技者の視野に入り存在感を出すこと。」を指導して頂きました。また、動きだした後にコース修正が上手くいかずボールホルダーから離れていくことに対して、修正するタイミングが遅れているため、頭の切り替えと同時に体も切り替えられるようになることが課題に挙がりました。

2日目：研修会

「大会を成功させるために」 (講師：遠山昭仁氏)

今大会に限らず今後も審判員として活動していくにあたり、レフェリーとしての心構えを話して頂きました。まず、「世界のサッカーは攻守の切り替えの早さと球際の激しさがあって、プレースピードが上がっている。それにレフェリーもついていかなければならない。」と説明して頂きました。また次に競技者がプレーに集中できる環境を作り上げることが言われました。そのためには、①プレー中の予測と気づき②ゲームをコントロールする力をつけていくことが必要になるとのことでした。そして、常に自分に何が足りていないか探究することでスキルアップしていくという「考動力(考えて、動いて、力をつける)」を大事にしていくことを学びました。

大会1日目(8/1)

担当試合 聖カピタニオ女子高校 対 前橋育英高校 INS:浅井昭子氏

主審：大谷美瑛 副審1：藤田ひなの氏

副審2：藤井柚香氏 第4の審判：竹田明弘氏

研修会テーマの動きとポジショニングから受け手競技者を予測し早い動きだしにつなげることにチャレンジしようと試合に臨みました。厳しい暑さの中での試合となり試合終盤にかけて集中力が低下していき、体力の不足を痛感しました。

浅井氏からは、試合終盤になってもロングパスのカウンターにスプリントでついていける点と次の争点に向けた動き出しのタイミングについて褒めて頂きました。改善点として、「①近い距離へ寄る動きにメリハリがないため、動き出しのタイミングの良さを活かせてない。②サイドに開いて受け手の競技者と争点が見やすい角度に動く意識をもつとショートスプリントを効かせ易くなるのではないか。」とアドバイスを頂きました。

また、警告の出し方やウォークの姿勢など見栄えの部分でもっと存在感を出してゲームをコントロールしていくことが今後の課題となりました。

大会 1 日目研修会

1. 大会 1 日目の振り返りとビデオによる課題の確認

1 回戦担当の主審から各試合結果と振り返りを発表し、情報共有を行いました。

インストラクターからは各会場から 1 シーンを取り上げ、映像研修を行いました。女子 1 級審判員の皆さんのゲームコントロールをする上で先手を取る行動や、猛暑の中で起きた負傷への対応など、夏季に遭遇しやすい場面で主審や審判団として何をすべきか整理することができました。

2. 「意思決定のプロセス」 (講師：小川佳実氏)

意思決定(判定)を行うために、まず「みる」ことで情報を得ており、次に「認識」においてどんな事象がおきているか理解する。そして、{考える} ことで競技規則に照らし合わせる。最後に「行動」に移し笛やシグナル等でコミュニケーションを取っているということをお話し頂きました。

はじめの「みる」は漢字や英語にすると見方が変化し、試合中も様々な「みる」を使い分けているということ学びました。

大会2日目 (8/2)

担当試合 福井工大福井高校 対 前橋育英高校 INS：浅井昭子氏
主審：近藤恭子氏 副審1：小林遥香氏
副審2：大谷美瑛 第4の審判：大西英里氏

この試合ではシュートがRサイドのゴール横を通過し、ゴール裏に設置していたネットを張る支柱にボールが跳ね返り、ゴールネットの外側でボールが止まり、ARサイドからは得点したように見えるシーンがありました。

この時私は主審とアイコンタクトをとった後、得点の合図をしましたが主審や選手の表情には戸惑いがありました。主審に見えたことを伝えゴールキックであることを確認しました。試合用具の点検の重要性、角度の違いによる事象の見え方の違いについて改めて学んだ試合となりました。

研修会・大会を通じて

今大会は私にとって初めて全国の審判員の方と一緒に研修する機会でした。

参加審判員には同世代の方が多く、サッカーや審判に対する姿勢から多くの刺激を受けることができました。私自身の課題としてアジリティー面とポジショニング修正について取り組んできていたことについて、課題達成の新たなヒントを得ることができました。

また、万全の体調で臨むことができなかった中でもロングスプリントについて評価して頂けたことは自信となりました。夜の研修会では考えること、行動に起こすことを止めると何も変化していけないと感じました。

最後に

今回、このような機会を頂き関西サッカー協会と兵庫県サッカー協会の審判委員会の皆様、並びに大会関係者の皆様に深く感謝しております。ありがとうございました。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



研修会に参加した2級・3級審判員と女子1級審判員全員の集合写真